

ニコニコ通信

「受けるよりは 与える方が幸いである」
(使徒言行録20章35節)

いつもニコニコ活動にご賛同・ご協力を賜り、ありがとうございます。ちょうど四十年前、弊社は経営危機にあつて、とてもない試練と苦難の中にありました。しかしながら、残された先輩諸氏に強い結束をもって歩むことを許して下さった多くの方々の愛に救われて、今なお事業を継続させて頂ける喜びを心より感謝する毎日です。「社会の皆様に向けて頂いたご恩を絶対に風化させてはいけない」。皆様がお寄せ下さった温かい恩義に心より感謝しつつ、私達もまたこのご恩を社会の皆様にお返しするよう、笑顔の輪を繋いでいきたいという先達の想いのもと始まったニコニコ活動です。感謝の心を大切にしつつ、社のDNAの一部としてこれからも受け継いでゆきたいと考えております。

今年度は東京では第28回、本社は第36回のチャリティバザーを盛況のうちに開催することができました。例年に増して多くのご献納を頂戴し、また晴天にも恵まれて、喜びのうちに多くのお客様にご来場頂いたことに感謝しております。また、模擬店の設営に駆け付けて下さった皆様方にも多大なご支援を頂戴し、参加した社員の一人は「心がつなが

「平成26年度を終えて」

ニコニコ推進委員長 山村 徹

る活動に参加できて良かったです。携帯電話などが普及し便利になった時代である反面、人と人との繋がりがや有難みを感じにくくなっている昨今ですが、その中でこのニコニコ活動を通じて普段にはない何かを得てゆきたいです。」と率直な感想を述べてくれました。このような貴重な時を与えて下さる皆様からの数々のご支援に、改めて心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

また、昨年度に続き、近江八幡市内にある作業所様を訪問させて頂き、ニコニコ献金をお届けしてまいりました。当日には利用者の皆様と一緒に作業をする機会を持たせて頂きました。作業の方々に温かく迎えられる、名前を覚えて下さったり、近況を語り合ったりする社員も出てまいりました。今後も継続して人と人との繋がりが喜びのときを下させて頂き、皆様と「共に歩む」私達でありたいと考えております。

私達はこのニコニコ活動を通して、多くの方々と触れ合う時を持ち、また同じ目的に向かって活動する仲間として、一つになれる時を持たせて頂いていることに心から感謝をしたいと思います。今年度も活動の折々には、多くの写真を撮らせて頂きま

平成26年度 実績報告書

期間 平成26年3月1日～平成27年2月28日 (単位 円)

期首募金残高	6,719,565	平成26年度献金総額	3,645,960
平成26年度募金総額	4,940,536	エマオ(東日本大震災復興支援)	1,000,000
個人献金等(3月度～2月度)	1,470,668	止揚学園	800,000
本社バザー収益金	1,032,122	アジア教育友好協会(AEFA)	300,000
東京バザー収益金	788,386	ワールド・ビジョン・ジャパン	100,000
本社ロビー売上金	1,510,660	Enije(エニジェ)	100,000
ありがとうカード(214枚)	10,700	滋賀県児童福祉入所施設協議会	500,000
よし名刺(12,800枚)	128,000	近江八幡市内作業所	600,000
		その他のクリスマス献金等	245,960
		積立金	1,541,000
		ラオス学校建設積立金	1,541,000
		期末募金残高	6,473,141

したが、これらの素晴らしい笑顔で彩られた笑顔の輪が更に大きく広がるよう、来る次年度も皆様とともに歩んでまいりたいと願っております。いつも私達をお支え下さる皆様方に改めて御礼を申し上げますとともに、今年度のご報告をさせて頂きま

感謝

エマオ(日本基督教団東北教区)

11月27日(木)、日本基督教団東北教区被災者支援センター・エマオ様へ、ニコニコ献金と当社の製品(シアハンドクリーム)を仙台出張所有村所長と共にお届けしてきました。

センター訪問後には救援対策本部の佐藤様のご案内で仮設住宅を訪れ、更には最大20メートルにも上る津波が襲来したエリア荒浜地区へも足を延ばしました。がれきは既に撤去されておりませんが、建物は基礎のみ確認がとれる程度で今も震災時のパワーを物語っています。わずかで30分程しか離れていないのに、ビルが点在する仙台市中心部の風景との違いに、環境の差を改めて感じ愕然としました。

同じ仙台市内でも中心部と被災エリアとでは復興に対する認識の違いが大きく、中心部ではもう震災が過去のものになっているとのこと。私自身も初めて足を踏み入れさせていただきましたが、まだまだ本場の意味での復興は先なのかと感じました。今回は非常に良い機会をいただき、ありがとうございます。

東日本営業部 羽鳥 和美



A E F A (アジア教育友好協会)

昨年の12月15日、辻本部長・粟飯原係長とA E F A(アジア教育友好協会)様へクリスマス献金をお届けに行き、谷川理事長より嬉しい報告を受けました。

『近江さんが支援しているラオスのカニオンケクナイ小学校出身のサリンダー・チャンタビーさんがサランラオス県職員養成短期大学に入学しましたよ。そして近い将来彼女の夢が叶いますよ。』

私がこの小学校を訪れた2011年1月、「将来この小学校の先生になりたい」と夢を語る中学生に会いました。それが彼女でした。彼女は7人兄弟の末っ子としてこの村に生まれ、この村で育ちました。兄弟姉妹のうち、3人は学校へ通ったことがなく、また姉の1人は洗濯をしていた時事故に遭い、足が不自由になってしまいました。そんなお姉さんのそばに居てあげたいというやさしい気持ちと村の子供達のためにも自分が先生にならなければと思う高い志を持っていました。彼女が教員資格を取って、この村で先生になることには大きな意味があります。この村は少数民族ラベン族の村で、普段は公用語のラオス語ではなく、ラベン語を話しています。街から来た先生にとっては異国と同じ、ほとん



2011/1 中学生だったサリンダーさんと

どの授業はラオス語で行われ、言葉の理解が出来ない子供達は授業について行けず、留年か学校をあきらめたいという事が多いそうです。彼女ならばそんな状況を変え、また子供達の希望にもなります。あれから4年の歳月が経ち夢を叶える努力をしたのは彼女ですが、A E F A様、NGOの方々、近江兄弟社の『ニコニコ献金』と周りの方々の心温まる支援もあり、近い将来村出身の小学校の先生が誕生します。

営業本部事務センター 太田 明子

編集後記



今年度は近江兄弟社の創業者W・M・ヴォーリズの没後50年にあたる年でした。

秋には、彼の偉業をあらためて広く知って頂くことを目的とした記念事業「ヴォーリズ・メモリアル近江八幡」が、市内に今も数多く残るヴォーリズ建築を会場に開催されました。また、会期中は当社のロビーにも全国各地から多数の「ヴォーリズファン」や観光客の皆さんをお迎えし、私たちにも数多くの学びの機会が与えられた毎日となりました。

没後50年の時が過ぎた現在でも人々に尊敬され、愛され続けているヴォーリズ。私たちは、その精神と志を受け継ぎ、また次の世代へ繋ぐものとしての責任と喜びを深く胸に刻み、これからも、そしてその先へと、歩みを進めていきたいと思っています。

最後になりましたが、皆さまのご支援、ご協力のおかげで平成26年度も無事に終えることができました。心より感謝申し上げます。

ニコニコ推進委員会

第36回

ニコニコチャリティバザー(本社)を開催しました。

今年初めて、ニコニコバザーに参加しました。当日は天候にも恵まれ、朝早くから多くの関係者の方々が集まって前準備をされていきました。初めてということどこに何があるか全く分からず、最初は右往左往しながらも自分の準備に取り掛かりました。

私は焼きそばの担当でした。おいしい焼きそばを作るのはテクニクが必要なので、その作業は長年焼きそば作りを担当されている方々に任せ、盛り付け・パック・会計を行いました。開場前から焼き始めて、パック作業が終わったのはお昼頃になっていました。作業が不慣れなところもあり、ほとんど自分の作業でいっばいいっばいでしたので、会場の雰囲気を感じる余裕もありませんでしたが、多くの方々が来場されて大盛況であったように思います。そのおかげもありまして、販売も好調で昼過ぎには完売しました。

バザーが終わりこうして思い返してみると、バザーに来て下さった方はもちろん、当日に開場前にブラスバンドの演奏で盛り上げてくれた近江兄弟学園の方、何日も前から仕事の合間の時間を使って準備して

下さった方など多くの方がバザーに携わっていただいております、その皆様のニコニコバザーに対する思いや協力があつて成り立っているのだなあと改めて感じる事ができました。今後この活動を通じて携わって下さった皆様の思いの輪が広がり、一人でも多くの方々にニコニコしていただけるようなバザーにしていきたいと思えます。

OAS 技術部 安積 寿幸



11月8日ニコニコバザー当日、入り口には朝からたくさんのお客様が開場の時刻を待っておられました。ブラスバンドの演奏も美しく、いよいよバザー開始の時刻になると、カウントダウンと共に、一斉にお客様がなだれ込んできました。皆様まずは、献納品のコーナーへ一目散に駆け寄り、それぞれがお目当ての品を選んでいらつしやるようでした。

私は当日、揚物コーナーでポテトを販売していました。ポテトは小さいお子さまや年輩の方にも人気で、飛ぶような売れ行きでした。私は、こんなにも大勢の方が来場されてとても賑やかなことに驚きました。毎年お越しになる方が多いのか、どなたも段取りよく場内を回り楽しんでおられました。ポテトを買いに来た小学生くらいの男の子が、お小遣いなのか、小さい財布から十円玉や一円玉をたくさん取り出し、ひとつひとつ目の前で並べて、「100円あつたーっ」と嬉しそうにしている姿が微笑ましく、私も「良かったね」と嬉しい気持ちになりました。年輩のご来場者様からは、「熱いから火傷せんように気付けてな」と優しい言葉をかけて頂いたり、普段は社内ですら仕事をしているのに、久しぶりにたくさんの方と会話を交わすことが出来た一日になりました。多くの方にご来場いただき、それ



それぞれ楽しんで頂けたようで嬉しかったです。このように大規模なバザーに参加し、貴重な体験ができたことに感謝致します。

品質管理部 中村 美咲



今回のバザーには「AEFAサポーター関西の会」の皆さんが、ちくぬい作品(ラオスの手織布で作った手芸品)の販売や、AEFA(アジア教育友好協会)の活動紹介などで初参加。「慣れない仕事に無我夢中でしたが、お客様の笑顔を見るのができてとても楽しく充実した一日を過ごすことができました。」と、当日の様子をブログでも紹介してくださいました。

第36回 ニコニコチャリティバザー-収支報告書(本社) 平成26年11月8日(土)開催 (単位:円)

【収入の部】	
売上高	1,724,260
当日売上	1,037,381
金券・ワイン・どらやき(前売)	686,879
特別献金	182,984
【支出の部】	
仕入高	837,700
雑貨仕入	67,240
ワイン・どらやき	479,958
食材費等	290,502
経費	37,422
光熱費等	37,422
収益金	1,032,122

バザーの収益金は、災害に遭われた地域の復興支援のために活動されている団体や、様々なハンディキャップを持つ方々の支援に力を注がれている団体を中心に、その全額を献金としてお届け致します。

ニコニコ献金をお届けしました。

止揚学園

12月19日金曜日、ニコニコ訪問で止揚学園に伺いました。

まず、何をすればいいのかわからなかったのですが、緊張してしまいました。ましてや人見知りをするものから、尚更でした。

職員の方にも施設を案内していただきましたが、どこも綺麗に清掃されていました。印象に残ったのは調理場、大変広いスペースで驚きました。トイレ、お風呂にもカラフルなタイルの色使い、入園者の方々が描かれたとても惹かれる明るい絵が飾られていました。学園ではお風呂は男性、女性と分かれて、入園者、職員皆が一緒に裸になって入るそうです。もしも自分自身が介護を受けた時、自分だけ裸にされて身体を洗ってもらうのは恥ずかしいじゃないだろうか?との思いからみんなが入浴するようになったとか。そうすることでお互いがリラックスでき、コミュニケーションもとれる。入園者共々、食事の次に楽しみな時間となっているそうです。

その後、コーヒーをいただきましたが、伺ったお話にとっても感銘をうけま

した。学園の畑の話なのですが、今年はお芋の実りがとても良かったので収穫を少し遅らせたところ、畑が穴だらけ(。)、お芋は何者かに齧られていたそうです(。)

畑の穴はモグラで、食べ荒らしたのはネズミの仕業。もちろん職員の方々は、悔しいやら憎いやらで、あのネズミめ、となったのですが、その場で入園者の一人の言った言葉にとても驚き、恥ずかしくなったそうです。

「ネズミさん、私たちの分も残しておいてくれてありがとう」
見方、立場を置き換えて物事を考える大事な言葉を最後にいただいたので、帰ってきました。

感謝
製造部 中井 利則

